

平成25年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研究種目： 研究集会

研究代表者： 福井 希一（大阪大学大学院工学研究科・教授）

研究分担者： 辻本 壽（鳥取大学乾燥地研究センター・教授）、安藤 孝之（鳥取大学国際交流センター・教授）、辻 渉（鳥取大学農学部・助教）、井上 知恵（鳥取大学乾燥地研究センター・プロジェクト研究員）、笹井 智博（大阪大学工学研究科・大学院生）、竹本 高広（大阪大学工学研究科・大学院生）、酒井 啓江（大阪大学工学研究科・助教）、モハメド アーメド（大阪大学工学研究科・大学院生）、留森 寿士（鳥取大学乾燥地研究センター・プロジェクト研究員）、土本 卓（大阪大学工学研究科・准教授）

研究題目（和文）：

ジャトロファ研究会

研究概要（和文）：

平成26年3月18日および翌3月19日に、大阪大学工学部（大阪府吹田市）にて 7th International Symposium “Effective Use of Bioresources in Arid Land” を開催した。乾燥に強いバイオ燃料作物ジャトロファや、同様に乾燥に強い油糧作物ホホバの研究に関する情報交換と議論を主に行い、乾燥地における生物資源利用の今後を考えることを目的とする国際シンポジウムである。今回は、スーダンの University of Khartoum から農学部長の Seif Gasim 教授を招いて、スーダンの乾燥地において 1970 年代から始まったホホバ栽培の経緯と今後について講演をしていただいた。また、国内からも 13 演題が口頭発表され、活発な議論が行われた。そのうち、研究分担者からの口頭発表は 7 演題であった（「研究成果」の項を参照）。ジャトロファやホホバの栽培、形質転換植物、組織培養、代謝産物解析、菌根菌、非破壊油解析法、に関する講演のほか、関連する話題として、転写因子を利用したストレス耐性形質転換植物の作成、および乾燥地農業に大きな問題となっている寄生植物、に関する講演が行われた。参加者は全体で 27 名であり、国内からは鳥取大学と大阪大学のほか、産業技術総合研究所、大阪府立大学、名古屋大学、近畿大学、神戸大学、帝京科学技術大学、国際農林水産業研究センター、大阪ハイテク専門学校、からの参加であった。